

二〇二三年四月二二日

筍にじかに値を書く露店かな
新緑の日の斑の遊ぶ茶庭かな
麦青む言ひ方尖る反抗期
杜若避けて竿さす潮来舟
春服の母の縫ひ目の強きこと

二〇二三年四月二一日

薄ら日に透けて眼福青楓
春月や波引くやうな子の寢息
足跡を浚ふ引き潮春惜しむ
棟梁は齡八十屋根を葺く
遠ざかりゆく春日傘見送りぬ
春雨の楽とミシンの二重奏

二〇二三年四月二〇日

たんぽぽを吹く子に戻るわた帽子
緋毛氈華やぐ野点竹の秋
たんぽぽを勲章にして登園す
通訳の要る児と笑ふ花の下

二〇二三年四月一九日

湧水を汲む一杓に緑さす
菰解かれ蘇鉄のびやか春の空
海の橋渡れば島の緑かな
正面に能舞台あり藤の棚

凡士 せいじ 隆松 智恵子 ひのと
もとこ ひのと みきお かえる 澄子 みきえ
かえる 智恵子 ひのと 智恵子
凡士 凡士 千鶴 宏虎

二〇二三年四月一八日

当直医廊下に一人花見かな
風光る背中に躍るランドセル
駅の巢へ遮断機くぐる燕かな
得意げに吹いて見せけり石鹼玉
ふく風に新緑揺らぐ山路かな
退職を労ふ握手あたたか
復活祭遺影の父に語りかけ

二〇二三年四月一七日

イースターエッグ届けむ病む友へ
軒低き漁村飛び交ふ海つばめ
飛び入りの蝶に色めく園児かな
小流れの花屑筏組はじむ

二〇二三年四月一六日

黒猫の戻る背中に桜しべ

智恵子 満天 なつき もとこ 千鶴 ひのと 智恵子 素秀

毎日句会みゆる選・二〇二三年四月二四日